

社会科（歴史的分野・公民的分野）学習指導案

日 時 令和元年5月31日（金）公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年D組40名
会 場 3C3B組教室
授業者 藤村 和弘

- 1 小単元名 歴史的分野 第7章2節 新たな時代の日本と世界
公民的分野 第1章1節 現代社会の特色と私たち

2 小単元について

(1) 生徒観

本校生徒は社会科への興味・関心は高く、個別の社会的事象について自ら調べたりまとめたりしてくる生徒も見られる。その一方、生徒間の知識量の差が大きいと感じられることも多く、特に歴史的分野では授業前にレディネスを揃えることに配慮する必要があると感じている。そこでこれまでの学習では、授業前の3分前学習の時間等を使って本次に関連する既習事項を振り返ったり、授業中も知識に関わる点について困り感が見られる場合には、その都度確認をしたりしてきた。また学習方法について質問してくる生徒の話聞いていくと、その多くが社会的事象のつながりや、まとまりを意識しないまま学習を進めていることに原因があると感じている。このことはつまり社会的な見方・考え方が十分に身につけていないということである。これまでも分野に関わらず単元等のまとまりごとに課題を設定し、その解決に向けて一単位時間の学習を積み重ねていくことを大切にしてきたが、今後は授業者が働かせたい見方・考え方を、より明確にして単元を構想していくことが必要だと感じている。

本小単元に関わる事前アンケートによると、「祖父・祖母と一緒に住んでいる」生徒は9世帯のみで、大半の生徒の家庭が核家族に分類されることが分かった。「兄弟姉妹の人数」については「2人」が25人と最も多く、続いて「3人以上」が9人、「一人っ子」が6人で、国勢調査をもとにした日本全体の統計に比べると、やや「子だくさん」の家庭が多いことが分かった。また「自分専用の携帯電話を持っている」生徒は22人おり、さらにそれ以外の情報通信機器を含めると、全員が日常的にインターネットを利用できる環境にある。「自分が商品を購入する際に現金以外で支払ったことがある」生徒は24人おり、内訳は交通系のプリペイドカードが最も多く、他に図書カードやカードにたまったポイントの利用が挙げられた。そこに「親が商品を購入する際に現金以外で支払ったことがある」生徒を含めると、ほぼ全員が何らかのキャッシュレス決済に関わった経験があり、生徒にとってキャッシュレス決済が日常的なものであることが分かった。

来月には学習旅行で徳島県徳島市と神山町を訪問する。多くの過疎地域を抱える徳島県の中で、神山町はNPO法人グリーンバレーの活動を中心に、新しい過疎地域の在り方を示している町である。およそ20年前から国内外の芸術家を招いて新しい価値観に触れたり異文化を受け入れる体制を整えるとともに、県との連携で高速通信網を整備することによって、現在ではIT企業のサテライトオフィスができたり、それまで町内になかったブルワリー、雑貨店、宿泊施設など新しいサービスが登場した。他県からの移住者も呼び込み、それらのサービスを機能させるために町の基幹産業である農業の価値が高まるという好循環を作り上げている。

本小単元で平成を振り返り、少子高齢化、グローバル化、情報化といった顕著な課題について理解を深めることで、学習旅行での学びが豊かなものになりたい。

(2) 教材観

1817年の光格天皇以来202年ぶりとなる天皇の退位が行われ、新しい元号「令和」の時代となった。平成を振り返ってみると、日本は長期の景気低迷、国際競争の激化、相次ぐ大規模な災害といった試練にさらされてきた。それでも昨年内閣府が行った世論調査で「現在の生活に満足している」とした回答は過去最高の74%に達し、生活の程度を「中の中」と答えた人が6割近くいたことは、厳しい局面でも混乱を抑えようと政・官・民それぞれが努力してきた1つの成果といえよう。大災害からの復興、急速な人口減少と高齢化、積み上がる債務残高、近隣諸国との領土問題、いずれ来る大災害などへ

の対処等，平成の時代から引き継いだ課題は多いが，これまで以上の創意工夫で長期戦略を練り，粘り強く実行することが求められている。

本小単元は，「学習指導要領解説社会編」（平成 29 年，以下「解説」）に示された歴史的分野と公民的分野の円滑な接続をねらったものである。

歴史的分野については大項目 C を構成する中項目（2）現代の日本と世界のうち，冷戦後の日本と世界の変化についてを取り扱う。その際「節目となる歴史に関わる事象を取り扱うようにすること」や，「これまでの学習と関わらせて考察，構想させるようにすること」（「解説」）が求められている。さらに後者について「そのねらいは，現代社会の諸課題についての個別の知識を獲得することにあるのではない」ことや，「生徒が自らの考えや意見を提案したり，議論したりする学習の過程を通して，（途中略）公民的分野の学習に向けた課題意識を持つことができるようにすること」が示されている。

公民的分野については大項目 A を構成する中項目（1）私たちが生きる現代社会と文化の特色を取り扱う。その際「公民的分野の導入部であることから適切かつ十分な授業時数を配当すること」や，「地理分野及び歴史的な分野との関連が深いことから，これまで身に付けてきた社会的な見方・考え方を総合的に働かせるようにすること」（「解説」）が求められている。

以上のことから本小単元の学習では，これまで身に付けてきた社会的な見方・考え方を働かせながら考察したり構想（選択・判断）したりするなかで，現代の課題について考え続ける姿勢や，今後の公民的分野の学習へ向けた課題意識を持たせられるように指導したい。

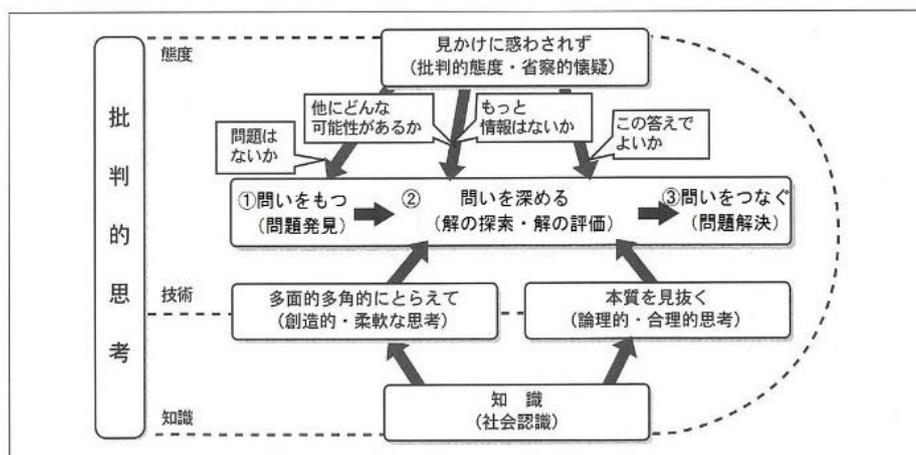
（3） 教科研究との関わり

① 「問いをつなぐ」ことを意識した批判的思考力を高める学習プロセス

「批判的思考力を高める学習プロセス」を本小単元に位置付けると，次項に示す【図】および【表】中「①問いをもつ」段階は，1，2 時間目である。ここでは年表を基に平成の出来事を振り返らせたり，新聞から平成の課題を読み取ったりする中で沢山の改善すべき課題があることを理解させ，その上で単元の学習課題である『持続可能な社会』の実現に向けて日本が改善すべき課題は何かを設定させる。「②問いを深める」段階は 3～6 時間目で，平成の間に見られた日本の顕著な変化を取り上げて追究させる。特にも 4～6 時間目は現代日本の特色となっている少子高齢化，グローバル化，情報化について追究させる。公民的分野との接続を図る意味でも，生徒にとってできるだけ身近で具体的な事例を取り上げ，今後の公民の学習への意欲を高められるようにしたい。「③問いをつなぐ」段階は 7～9 時間目で，平成時代について，その全体像を把握させたうえで生徒個々が発見した問いについて課題解決を図らせたい。

【図 批判的思考力を高める学習プロセス】

※道田泰司（2001）を基に作成



【表 批判的思考力を高める具体的な学習活動】

① 問いをもつ	② 問いを深める	③ 問いをつなぐ
ア 社会的事象を的確にとらえる。 イ 社会的事象相互の関係構造を把握する。 ウ 課題を発見・把握する。 エ 解決の見通しを立てる。	ア 資料を収集し，読み取り，読み取った情報を記述する。 イ 社会的事象の意義や意味を解釈する。 ウ 社会的事象間の関連を説明する。 エ 自分の意見をまとめて論述する。	ア 全体構造を把握する。 イ 学習成果が転移・応用可能かどうか考える。 ウ 他単元，他分野，他教科や実社会とのかかわりを見いだす。

② 学びの自覚化を促す学習評価

本小単元の1時間目に、平成元年の日本の様子が分かる資料を取り上げたり、持続可能な社会の実現が求められていることを教えたりして、単元を貫く課題「持続可能な社会の実現に向けて、日本が改善すべき課題は何か?」を設定する。その際、単元のゴール像として、作成したレポートを9時間目にグループ内で発表し、相互に評価することを伝える。生徒は、これまでも同様の学習を積み重ねてきている。2年生歴史的分野で明治維新について学習した小単元では、「明治時代になって、当時の人々の生活に最も影響を与えた政策は何だろう?」を課題に学習を行った。この学習では時代の変化に着目し、明治時代の政策を江戸時代と比較させることで課題の解決に向かわせた。2年生地理的分野で東北地方について学習した小単元では、「東北地方の魅力を伝える観光ツアーを提案しよう」を課題に学習を行った。東北地方について学ぶ小単元を地方学習の最後に位置付け、他地域との比較から東北地方の特色を見出し提案を行わせた。評価の視点としてルーブリック(評価指標)を作成するが、これまでの学習経験を生かし、生徒と共にルーブリックを完成させたい。そして生徒同士の相互評価と教師からのフィードバックを通して学びの自覚化を促していきたい。

3 単元計画

(1) 育成を目指す資質・能力

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
社会科で育成を目指す資質・能力	表面的事象にとらわれず、社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に事象をとらえ本質を見抜く力(批判的思考力)		他者との対話など異なる視点からの考えを聴き合い、自分の考えを再構築したり合意形成を図ったりする力(協調性等)	実社会およびそこに生起している社会的事象に関心を持ち、 問題を発見したり(問題発見力) 、考察したり、解決策を考えたりするなど課題の解決に関与する力(社会参画意識)
本小単元で育成を目指す資質・能力	日本経済の発展と現代社会の特色である少子高齢化、情報化、グローバル化について理解し、発見した問題をレポートにまとめて発表する力	日本経済の発展と現代社会の特色について多面的・多角的に考察し、複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)する力(批判的思考力)	自らの考えを納得が得られるように説明したり、他者の考えを参考にして自分の考えを再構築して合意形成を図ったりする力(協調性等)	日本経済の発展と現代社会の特色について関心を持ち、問題を発見したり解決策を考えたりしようとするなど問題の解決に関与する力(社会参画意識)

(2) 指導目標

資料を読み取ったり「持続可能な社会を実現する」視点に着目させて話し合ったりすることを通して、平成の時代に見られた諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などが、現在と将来の政治、経済、国際関係に影響を与えていることを理解させる。

(3) 評価規準

- 平成時代に見られた日本経済の変化と現代社会の特色である少子高齢化、情報化、グローバル化について理解し、その知識を身に付けている。様々な資料から有用な情報を選択し、読み取ったり図表などにまとめたりしている。(知識・技能)
- 平成時代に見られた諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、「持続可能な社会の実現」の視点から現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論理的に説明することができる。(思考・判断・表現)
- 平成時代に見られた社会の変化に対する関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(4) 指導計画及び評価計画

時	社会的な見方・考え方を働かせるための問い			評価規準	評価の観点			
					知技	思考力	態度	
1	単元の学習課題 「持続可能な社会」の実現に向けて日本が改善すべき課題は何か？～平成時代から考える～	<ul style="list-style-type: none"> ・【新聞記事】を読み取り、元号には意味が込められていることを知る。 ・「平成に込められた願い（国の内外、天地とも平和が達成される）は達成されたのだろうか」と問う。 「平成」に込められた願いは、達成されたのだろうか？ ・平成時代の日本と世界の出来事をまとめた【年表】を読み取る。 ・平成31年4月30日と令和元年5月1日の【新聞記事】を読み取り、願いが達成された部分と、課題として残された部分があることを知る。課題として残された部分から、単元の学習課題を設定する。 「持続可能な社会」の実現に向けて日本が改善すべき課題は何か？ 			歴史的分野	<input type="radio"/>		
2		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かし、レポートを作成・相互評価する際の評価指標（ルーブリック）を作成する。 ・【統計資料】の読み取りを基に、平成時代に顕著な変化が見られた社会的事象を捉える。 			歴史/公民	<input type="radio"/>		
3		<ul style="list-style-type: none"> ・1989年と2019年の人口ピラミッド(グラフ)から、平成時代に日本の少子高齢化が急速に進展したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1989年と2019年の訪日外客数と出国日本人数の推移から、平成時代に急激にグローバル化が急速に進展したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの利用人口の推移や携帯電話、スマホの所持率の推移から、平成時代に情報化が急速に進んだことを理解する。 				
4		<ul style="list-style-type: none"> ・合計特殊出生率が低下していることや、生産年齢人口が減少していることを知る。 ・【新聞記事】から昨年度成立した改正出入国管理法について内容を読み取り、問いをもつ。 外国人労働者の受け入れ拡大は、少子高齢化の改善につながるのか？ ・分野は限定されるが外国人労働者の受け入れが拡大されていくことや、それに伴い社会保障や地域の受け入れ体制の整備などの課題が見られることを理解する。 			公民的分野		<input type="radio"/>	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・1985年と2017年の【日本の品目別食糧自給率の推移】から、食糧自給率が大きく低下している品目があることを読み取る。 ・【年表】からオレンジの輸入自由化(1999年)など他国との関わりが影響を与えていることに気づき、問いをもつ。 日本は食糧自給率を上げるために自由貿易をどこまで制限すべきか？ ・【新聞記事】から米トランプ大統領の保護貿易政策と米国国内の多国籍企業の実態の矛盾を読み取る。 ・「持続可能な社会を実現する」視点で考え、国内だけでなく世界全体の発展の視点を持つことの大切さに気付く。 			公民的分野		<input type="radio"/>	
6 (本時)		<ul style="list-style-type: none"> ・【日本のキャッシュレス決済割合】の推移から、将来的にキャッシュレス決済を8割まで上げる目標を持っていることを知る。 ・単元の学習課題を振り返らせ、課題を設定する。 キャッシュレス決済は持続可能な社会の実現につながるか？ ・キャッシュレス決済に関するさまざまな資料を読み取り、自分の考えをまとめる。 ・「持続可能な社会を実現する 			公民的分野		<input type="radio"/>	

7	・単元の学習課題について追究する。	歴史/公民 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ・平成時代に見られた社会の変化の様子と解決すべき課題について、「持続可能な社会の実現」の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論理的に記述したり説明したりすることができる。 ・平成時代に見られた社会の変化の様子と解決すべき課題について関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色を捉えようとしている。
	教師のフィードバック	
8	・単元の学習課題について追究する。	
9	・班で発表し相互評価を行う。	

4 本時について

(1) **主題** キャッシュレス決済～情報が変える社会の仕組み～（6／9時間）

(2) 指導目標

資料を読み取ったり「持続可能な社会を実現する」視点に着目して話し合ったりすることを通して、日本のキャッシュレス決済の現状と課題について考えさせる。

(3) 評価規準

日本のキャッシュレス決済の現状と課題について、「持続可能な社会を実現する」視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論理的に記述することができる。【思考・判断・表現】

(4) 授業の構想

導入では最初に【1円硬貨の年別発行枚数の推移】の読み取りを行う。発行枚数が大きく増えている年と減っている年に着目させ、「なぜ発行枚数が増えている（減っている）のか？」という問いを持たせる。第1時での学習や生活体験から消費税との関わり（平成元年導入3％、平成9年増税5％、平成26年増税8％）があることに気付かせる。また継続的に発行されていない時期（平成11年～、平成23年～）に着目させ、「なぜ生産されなくなっているのか？」という問いを持たせる。生徒の生活体験と【キャッシュレス決済金額の推移】から、キャッシュレス決済の普及の影響が考えられることに気付かせる。さらに【キャッシュレス決済の種類】を提示し内容を整理する中で「決済」とは支払いのことであり、「キャッシュレス」とは現金以外の手段で支払いを行うことであると補足する。事前アンケートによれば生徒は日常的にプリペイドカード等を使っているので、「キャッシュレス決済の魅力は何だろう？」と問い、生徒の生活経験からキャッシュレス決済の良さをあげさせる。その上で【日本のキャッシュレス決済割合】を提示し、日本は将来的に80％まで高める目標があることを伝え、「キャッシュレス決済は持続可能な社会の実現につながるか？」と問い、本時の学習課題を設定する。

展開では、まず自分の考えを明らかにした上で、資料の読み取りを行う。ここで用いる資料は多数あるが、そこから必要な情報を取捨選択したり組み合わせたりして、意見をまとめさせる。その際「持続可能な社会を実現する」視点に着目させることで、店側の労力を削減できることや現金を維持するコストを削減できること（エネルギーの視点）、高齢者などキャッシュレス決済への不安を持っている人への配慮が必要なこと（人権の視点）、データの利用から個人情報漏えいする心配があること（安全の視点）、災害時に使えなくなる心配があること（防災の視点）に気付かせたい。まとめた意見を基にグループ交流を行い、さらに考えを深めさせる。全体発表ではグループで話し合った点を加味して自分の考え（の変化）を話させる。ここで獲得した視点は、生徒たちが単に本小単元の課題を考えるためだけに用いるものではなく、「現代社会の見方・考え方」の核となり得るものとする。

終結では本時の学習課題についての最終的な意見をまとめさせるとともに、これまでの学習で取り上げてきた少子高齢化、グローバル化、情報化について振り返りを行わせたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等 【 】資料	時間 (分)	指導上の留意点および評価 ・指導上の留意点 ○評価
導入	1 「持続可能な社会」について確認をする。 2 資料を読み取る。 【1円硬貨の年別発行枚数の推移】 【キャッシュレス決済金額の推移】 ・近年の発行枚数が少ないのは、キャッシュレス決済の進展と関係がある。 3 学習課題を設定する。 【キャッシュレス決済の種類】 ・現金を使わない決済をキャッシュレス決済という。 【日本のキャッシュレス決済割合】 ・日本はキャッシュレス決済割合を8割まで高める目標を持っている。	10	・これまでの学習から消費税の導入や増税との関連に気付かせる。 ・生徒の日常体験からキャッシュレス決済の良さをあげさせる。
キャッシュレス決済は「持続可能な社会」の実現につながるのか？			
展開	4 学習課題に対する自分の考えを持つ。 ・つながる（会計が迅速、訪日外国人の消費額を上げる） ・つながらない（現金の方が全ての人に平等） ・分からない 5 資料の情報を読み取り、自分の意見をまとめる。 資料1【災害時のキャッシュレス決済】 資料2【キャッシュレス波高し】 資料3【決済手数料】 資料4【高額紙幣】 資料5【観光ビジョン】 資料6【現金決済に必要な店側の業務】 資料7【データ利用】 資料8【現金の維持費用】 6 グループで交流する。 7 グループ交流をふまえて全体で交流し、自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>記述例1) つながると思う。なぜなら日本は少子高齢化が進んでいるので、店側の労力を減らしたり維持費を削減したりすることが必要だと思ったからです。(エネルギーの視点)</p> <p>記述例2) 高齢者などキャッシュレス決済への不安を持っている人への配慮や、震災時への対策が必要なのでつながらないと思う。(人権、防災の視点)</p> </div>	35	視点(1)②エ自分の意見をまとめて論述する 「キャッシュレス決済は持続可能な社会の実現につながっているか」について、複数資料を結びつけて自分の意見をまとめる。 ・グループで話し合った点を加味して意見を話させるようにする。 ○日本のキャッシュレス決済の現状と課題について、「持続可能な社会を実現する」視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論理的に記述することができる。【思考・判断・表現】

終 結	<p>8 振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に見られる課題は、少子高齢化やグローバル化、情報化などの課題が入り組んでいると思った。複数の視点や立場で考えることが大切だと思った。 ・「持続可能な社会を実現する」ための視点で見れば、日常の中に様々な課題を発見できると思った。自分にできることを考えたい。 ・新紙幣はどれくらい使われるのか、また銀行の役割がどうなっていくのか疑問に思った。 </div>	5	<p>視点（1）③ウ実社会との関わりを見いだす 実社会に起こっている社会的事象との結び付きについて興味関心を高める。</p>
--------	---	---	---

【引用文献・参考文献】

博報堂生活総合研究所（2019）『生活者の平成30年データで読む価値観の変化』日本経済新聞出版社
 吉野太喜（2019）『平成の通信簿 106のデータでみる30年』文春新書
 青山誠・市ヶ谷ハジメ（2018）『統計でふりかえる平成日本の30年』株式会社双葉社
 池上彰（2018）『池上彰の世界から見る平成史』角川新書
 後藤謙次（2018）『10代に語る平成史』岩波ジュニア新書
 坂井隆之・宮川裕章（2018）『AIが変えるお金の未来』文春新書
 経済産業省（2018）『キャッシュレス・ビジョン』経済産業省商務・サービスグループ
 西村友作（2019）『キャッシュレス国家 中国新経済の光と影』文春新書
 岩田昭男監修（2019）『キャッシュレス経済超入門』株式会社宝島社
 キャッシュレス研究会（2019）『キャッシュレス決済最前線』株式会社技術評論社
 毎日新聞出版（2019）『月刊NEWSがわかる2月号』